

「外国人神学生、志願者の養成のための会議」のまとめ

—カトリック召命チーム

ベトナム神学生・志願者養成に関する会議 報告書

ベトナム人志願者の推移・・図表

I. ベトナムへの帰国の原因

1. 語学習得の難しさ

*実状

*語学習得に対する対応

2. 召命意識の希薄さ・人間的未熟さ

*実状

*召命意識の希薄さに対する対応

3. 日本文化、習慣への適応の問題

II. 養成上の問題

1. 人間関係

2. 情報化社会から生じる問題

3. 修道会間の情報交換に関して

III. 日本教会の司教様方、ベトナム教会の司教様方へのお願い

1. ビザ取得に関して協力してもらえないだろうか

2. ベトナム語の図書の充実して欲しい

ベトナム神学生・志願者養成に関する会議
報告書

月日：2012年10月13日

時間：14:00～16:20

場所イエズス会 岐部ホール310号室

参加者：大司教1、女子修道者26 男子修道者6

(17女子修道会 4男子修道会 2教区 カトリック召命チームのメンバー)

はじめに 大阪教区 池長潤 大司教様がこの会議開催の経過を説明してくださいました。
そのあと、この会議の開催を準備してきた、召命チームの大山神父がここ10年間のベトナム人神学生、
志願者候補者の推移を示し簡単な説明を致しました。それは以下の通りです。

ベトナム人志願者の推移

ベトナム人志願者の推移				
	女子入国	帰国	男子入国	帰国
1999	3			
2000	6			
2001	1		3	
2002	1		3	
2003	7	2	4	
2004	3		6	1
2005	10	2	2	
2006	33		3	2
2007	17	7	4	
2008	16	5	1	1
2009	12	6	7	1
2010	7	9	2	2
2011	22	6	1	1
2012	8	3		1
2013	3			
総数	149	40	36	9

この表から男女とも約4分の1の割合で、帰国していることが分かります。
しかしここ数年は帰国者数が次第に減少してきていることが分かります。受け入れ側も自分たちのあり方を見つめながら、受け入れることに慣れつつあるようです。

1. 帰国の原因

1. 語学習得の難しさ

*実状

帰国の原因としてあげられるのは、まず日本語習得の難しさです。日本語の習得ができない場合、日本人会員とのコミュニケーションがとれませんので、誤解されたり、自分の思いを伝えられなかったり、孤独になり家族への思いが深まったり、また他のベトナム人とのつながりを深め色々な情報を入手して、その人が属している修道会への疑問が増したりして、次第に気持ちが、その人が属する修道会や日本で

の宣教から離れていくようです。

* 語学習得に対する対応

- ① ベトナムで日本語を学び始めることは大切である。全く学ばないで来るより、少しは学んで来たほうが適応は早いようです。
- ② 語学は一番、コンプレックスを感じる事柄である。ベトナムの仲間どうしで競争するし、日本人会員から何度も注意され過ぎると嫌気がさしてきて、「自分は語学習得能力がない」と思いこんでしまい、折角の召命を失うこともある。
- ③ 受け入れ側は、ベトナム人の日本語習得には個人差があることを理解し、それぞれにあった習得に添うことが必要。また忍耐をもってゆっくり教え続けることも大切。上から目線で追い込むのではなく、共に歩むつもりで同伴することが大切である。

2. 召命意識の希薄さ・人間的未熟さ

* 実状

- ① 人間的にも未熟で、召命意識がまだしっかりしていないために、自分の将来を真剣に考え始めたとき、修道者ではない道を選び取っていく。
- ② 修道会から見れば、多額の資金を投入して日本語を習得させ、共同体でその志願者を見守ってきたのに、その志願者がその修道会を去り故国に帰っていくのは、何とも言えない淋しさと失望、そして「自分たちが利用されただけ」という口にはできない微妙な怒りともなっている。

* 召命意識の希薄さに対する対応

- ① 10代の学生が人間的に未熟で召命意識がまだ十分でないのは当然なことである。召命意識はしばしばちょっとした切っ掛け（修道服への憧れ、食べ物への憧れなど）から始まり次第に深め、強めて行くものである。
- ② 人間的成熟と召命意識を育てるのは、その会の「養成プログラム」である。志願者を引き受けた会が責任をもって、召命意識を育てることが大切である
- ③ 日本に直接、志願者を受け入れる前に、フィリピンやベトナム、タイ、インドネシアなどのアジア各地の、同じ修道会あるいは邦人の修道会の家で、召命意識を高めることもできる。その場合、修道会同士の協力関係が必要。
- ④ 現地にいる同じ修道会の中で召命の識別を行い、日本での宣教を強く望んでいる人を受け入れるときいにはこのような問題は生じない。

3. 日本文化、習慣への適応の問題

- ・この問題はほとんど無い…
- ・個人差があるが、多くの場合は、日本語習得と関連している。日本語の習得がうまくいけば、コミュニケーションができるので、日本文化、習慣への興味がわいていくようだ。

II. 養成上の問題

1. 人間関係

- ・日本人会員とベトナムからの志願者の年齢差が大きい。
 - ・時にジェネレーションギャップを感じている。
 - ・若者たちの情報伝達の方法についていけない老会員は違和感を持っている。
- ・ベトナムから来る若い志願者は、「老人介護のために日本に来る」ことに不安と不満をもつ。

2. 情報化社会から生じる問題

- ・メールなどで、世話をしてくださるベトナム人司祭たちから「黙想会や集い」などの誘いなどがくると、それに振り回されてしまう。
 - ・修道会による養成の妨げとなっている。
- NB：神父様方の協力に感謝するが、「修道会の方針に従う養成の重要性」も伝えて欲しい。

- ・ベトナムからの志願者が若いので、まだ世界や社会のことに関心がある。
- ・別の会の同じ年代の人たちから来るメール情報による触発によって、会への不満が生じている。

3. 修道会間の情報交換に関して

- ・お互いがメールなどを通して必要な情報を得る。
- ・特別の委員会などは設けない。

III. 日本教会の司教様方、ベトナム教会の司教様方へのお願い

1. ビザ取得に関して協力してもらえないだろうか・・・宗教ビザが降りにくくなっている。

- ・ビザを取りやすくする方法を教えて欲しい。
- ・ビザ取得に関して相談できる窓口を作って欲しい
- ・「日本の各修道会に対する証明書」を出して欲しい。
その会のカリスマや具体的宗教的奉仕などを明記したもの・・・ビザ取得が容易になるのではないかと思います。

2. ベトナム語の図書の充実して欲しい = ベトナムの教会の援助が得られることを望む。

- ・「カトリック教会の教え」のベトナム版
- ・ベトナム語の聖書
- ・フランシスコの伝記、ボナベントゥラの伝記、トマス・チェラノの伝記など
- ・その他、神学・哲学に関する書籍

↓

対応(可能性)

- ①同じ会がベトナムにある場合は、その会を通して取り寄せる。
- ②日本のみの会の場合・・・上述のようなテキスト（無料の場合）を日本カトリック神学院・東京キャンパスに送ってもらう。
- ③もし購入という形が望ましいなら、外国に書籍を送ることのできる、書店名、住所、電話番号、支払い方法を教えて欲しい。

文責 大山 悟 p.s.s